

# 公開講座 スプーンとして書くこと

講師：関口涼子（作家）

関口涼子さんはパリ在住でフランス語と日本語とで執筆・活動をしている作家です。関口涼子さんはみなさんと同じように大学でフランス語を学びはじめ、パリへの留学からフランス語作家への道を歩んできた方です！

関口涼子さんにとって書くこととはなにか。現在の作家活動全般についてお話しをいただきます。

日時：2023年5月11日（木）13:00-14:30 **7101教室（7号館1階）**

◆ 木曜3限「文化とジェンダー(1)」(木村朗子)の授業で実施します。受講生以外の方はあらかじめフォームから申し込みをしてください。 [HTTPS://FORMS.GLE/HNYVVCDAWFZBDC7EA](https://forms.gle/HNYVVCDAWFZBDC7EA)

## Ryoko Sekiguchi

961 heures à Beyrouth  
(et 321 plats qui les accompagnent)



ベイルート961時間 関口涼子  
(とそれに伴う321皿の料理)



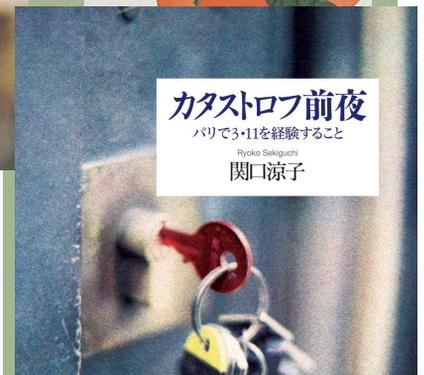
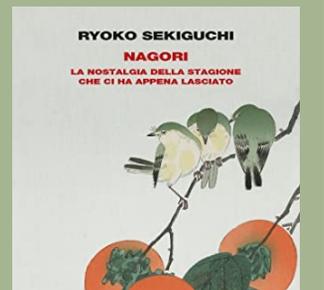
講談社 魂のための味覚、そして魂のための栄養素。それが人間にとっての「食」なのだと感じた。  
——ヤマザキマリ  
ねたましい！これはぼくがするはずの旅であり、食べるはずの料理だ。  
ベイルートにつながるバグダッドの味、イスファハンの味、食ったことはいない、この作者は（彼女が初めて出版された）この分冊である。  
カタストロフを生き抜く食の力と、心揺さぶる街の記憶。  
五感のアーカイブとしての「料理本」。  
——池澤夏樹

## Ryoko Sekiguchi

Nagori  
La nostalgie de la saison qui vient de nous quitter



La Voix sombre



世界で日々起きている破局的な出来事、その狭間を自分も生きているのだと、不意に気づかされることもある。身近な人の大切な時に立ち会えなかった作家に大震災がもたらした、生者と死者とを結ぶ思想、フランスで絶賛された震災三部作を一篇にまとめた邦訳版。

わたしに触れる  
声の亡霊たち

明石書店

RYOKO  
SEKIGUCHI  
P.O.L